

「卓越性の伸長」及び「多様性の理解」について

高校再編推進室

「卓越性の伸長」について

○ 高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針

＜方針2 夢に挑戦できる多様な学びの場、学びの仕組みを整備充実します。＞

(1) 多様な学びの場の整備充実

ウ モデル校（現「未来の学校」構築事業）方式による新たな学びの場の創造

・卓越した探究的な学びを推進する高校

現代の最先端の学問分野等も視野に入れ、将来、大学や大学院の研究につながっていくような卓越した「探究的な学び」を可能とする学科を設置するなど、生徒の「もっと知りたい」「もっと深く学びたい」に応える教育課程の編成や実践を行う。また、高大連携を図り、大学等での授業の受講や単位認定のあり方についても研究する。

また、突出型の学びの履歴を活かし、自己の特性をさらに追究する学びを含めることについても研究する。

○ 県立高校「未来の学校」構築事業 実践校

＜卓越した探究的な学びを推進する高校（スーパー探究校） 実践校：野沢北高等学校＞

佐久市内外の病院や企業、大学等と連携し、それぞれの分野の最先端を学びながら、地域や社会の課題解決につながる卓越した探究活動を行い、「広い知識と教養及び未来を担う自覚」「論理的思考力と主体的課題解決能力」等を備えた、地域や日本、世界で活躍し未来社会の核となる人を育成する。

「多様性の理解」について

○ 中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」

～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

○ 中央教育審議会 教育課程企画特別部会「論点整理 1. 2030年の社会と子供たちの未来」（平成27年8月）

「複雑で変化の激しい社会の中では、固有の組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけでなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していく力が必要になる。」